〔学　　会〕

東京女子医科大学学会　第115回例会抄録

日　　時　　昭和37年6月22日（金）午後2時

場　　所　　東京女子医科大学本部講堂

1. 当科に於ける骨肉腫の予後について

（整形外科）○渡辺　千代・白須　敞夫

骨肉腫は主として，前途有為の若年者が罹患して，生命に対する予後極めて悪く，壮老年者の癌腫に匹敵する重要性をもつ疾患である．教室における骨肉腫とその類似疾患の予後調査の結果によつても，骨肉腫は切断術の有無にかかわらず極めて悪性で，ほとんど全例が発病後3年以内に，切断後2年以内に死の転帰をとつている．一方良性巨細胞腫や，軟骨芽細胞腫のようにレ線上，時に臨床上骨肉腫に類似してはいるが，切断術を行なわず，しかも生命の予後がよい．

骨肉腫に対しては肺転移以前に患肢を切断することが理論的には最良の方法ではあるが，微小な肺転移の発見の困難性や，切断による患者の精神的打撃，切断によつても必ずしも予後のかんばしくない点などを考えるとき，切断術の決定には甚だ慎重ならざるを得ない．骨肉腫の早期診断，肺転移防止法が今後最も重大な研究課題であろう．

2. 糞塊による尿閉の1例

（皮・泌）梅津　隆子

○吉田美喜子・小松　郁子

尿閉の90%は男子が占め，その原因は前立腺肥大症，尿道狭窄によるものが多い．

尿閉の原因として稀な糞塊による1例を経験した．

症例：患者46才，男子，初診昭和36年10月17日．

現病病：約20日前肺浸潤の診断のもとに内科入院，化学療法と第3度安静で加療中．入院以来便秘に傾き，下剤，浣腸も効なく，10月14日排尿意のごとくならず，翌15日以来自然排尿全くなく，連日導尿を続け，下腹部膨満感，尿意促迫耐えがたく外来を訪る．

現症：膀胱部は臍窩下2横指まで濁音を呈す．膀胱鏡的に頂部，側壁，底部とくに三角部を中心に頸部にかけて，充血粘膜に蔽われた半球状あるいはソーセージ様膨隆を認め一部に緩慢な腸管蠕動を認める．

治療および経過：以上の所見から糞塊による尿閉と診断，連続浣腸，下剤投与により尿閉6日目に至り漸く排便とともに自然排尿可能となる．

すなわち，頑固な便秘による糞塊のため膀胱頸部，後尿道の機械的圧迫に加えて，膀胱頸部の鬱血性浮腫，充血が原因となつたと考えられる1例である．

3. 静脈帰還の生理的パターンについて

（菊地生理）○田中　一郎・藤田　哲弥

演者らは小型のサーミスターを先端に装備した心臓カテーテルを血管中に挿入することにより，その部位の血流速度の変化を連続的に測定しうる恒温熱血流計を製作した．この装置を用いて血行動態の研究，あるいは臨床検査上の応用に資するための基礎として，心電図，呼吸曲線および血圧曲線の同時記録下で，下行大静脈内各部位にサーミスターカテーテルを挿入し，血流の生理的パターン，特に呼吸運動と下行大静脈帰還量との関係について定量的測定を行なつた．この結果を中心として呼吸運動と下行大静脈流との関係，更に下行大静脈流に関する腹一胸ポンプ機構について述べた．

〔症例検討会〕

4. 重症な水疱症について

——天疱瘡の1例，他2例——

（司会）中村　敏郎

天疱瘡の1例と他2例を紹介し，これについて検討した．追つて全文掲載する．

5. 〔綜説〕コナダニ類の繁殖について

（寄生虫）○白坂　竜昿・松本　克彦

コナダニの類は分類学的には，節足動物門（Arthropoda），クモ綱 Arachnida のダニ目の中の無気門亜目 Sarcoptiformes に含まれるもので，その種類は非常に多いが，そのうち知られているものは，コナダニ科のケナガコナダニ，アシブトコナダニ，ムギコナダニ，チビコナダニ，ネダニ等，ホシカダニ科のホシカダニ，サトウダニ科のサトウダニ，ニクダニ科のサヤアシニクダニ等である．